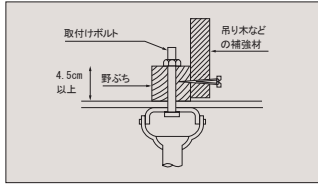


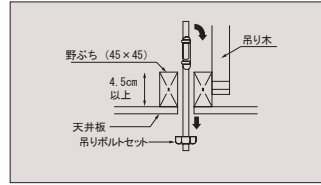
施工ガイド

吊り下げ器具・直付け器具 取付け方法の例

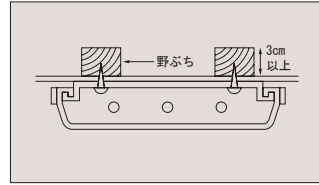
- 商品に同梱包の木ネジで取り付ける場合には、取付面の強度を確認してから取り付けてください。
 - 取付け方法の指定のある器具は、必ず指定方向に取り付けてください。
- またカタログ写真と異なる方向で取り付ける場合は、担当者に必ずお問い合わせをお願いいたします。



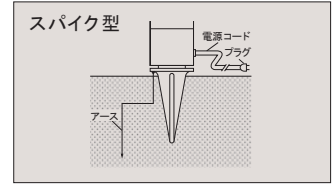
A: 10kg 以上、30kg 以下のシャンデリアなど吊り下げの場合



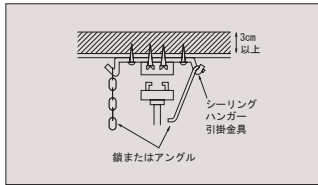
B: 30kg 以下のシャンデリアやシーリングなどの場合 (天井下から取り付けられる吊りボルトセットを用意しています。別途ご用意ください)



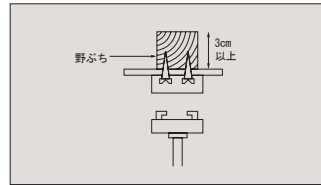
C: 5kg 以下のシーリングなどの場合



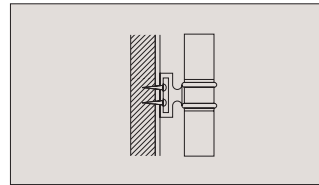
地面に差し込むだけ。工事の必要がない簡易型です。キャブタイヤコードが付いているので、屋外コンセントがあれば取り付けられます。



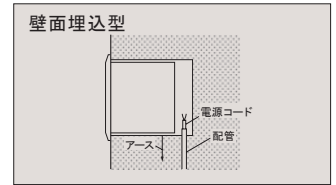
D: 重いペンダントなどの場合



E: コードペンダントなどの場合



F: ブラケットなどの場合



壁面埋込型
切り込み寸法加工の際は精度にご注意ください。タイルなどの壁面材の場合には詳細なお打ち合わせをお願いいたします。

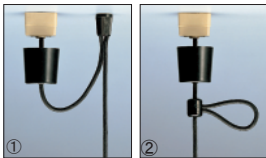
取付簡易型フランジについて

取付簡易表示の商品は、取付簡易型フランジが付いています。マンションや公園などで天井に右のような引掛埋込ローゼットが付いているところでは、ドライバー1本で簡単に取付けられます。



引掛シーリングについて

- ①コードは1.5または2mでコードハンガー・フランジカバー付きの引掛シーリングです。
- ②引掛シーリング同梱包でコード0.8m、中間ハンガー・フランジカバー付きです。(輸入品については、引掛シーリング同梱包でコード1.5m、中間ハンガーなしとなります。)

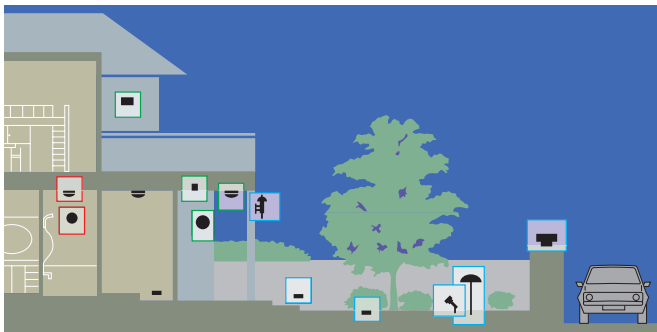


防雨・防湿型器具

■防雨・防湿型
湿気の多い場所、浴室・洗面所。雨の降りかかる心配のあるポーチ・軒下などでも使える防雨・防湿機能を備えています。

■防雨型
ポーチ・軒下など雨が降りかかる場所に使用できます。防湿機能は備えていませんので浴室などへの使用は避けください。

取付け場所や条件に合わせて4タイプの器具があります。
※器具の取付けは必ず壁面と器具取付部のゴムパッキンが密着するようにしてください。



■防湿型
浴室・洗面所など湿気の多い所に取り付けてください。

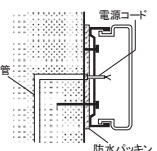
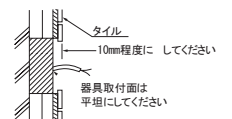
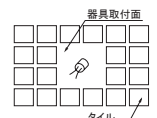
■防滴型 (軒下専用)
屋外でも直接雨や風の影響を受けない場所での使用に適しています。

防雨・防湿 / 防湿 / 防滴 防雨型器具の施工方法

- ◎ご注意
- ガラスにヒビ、割れなどを生じたものは使用しないでください。
- ソケットパッキンとランプロ金パッキンはしっかり密着するようにねじ込んでください。
- 接地(アース)工事は、法規で定められていますので必ず行ってください。
- 器具本体への雨水等浸入防止のため、取り付けは、平らな面に防水パッキン・木台などをご使用ください。
- 薄い天井・壁への取付けには、補強材を入れてください。
- 取付け方法の指定してある器具は、変形や絶縁不良などの原因になるおそれがありますので、指定方向に取り付けてください。それ以外の商品で、カタログ写真と異なる方向で取り付ける場合は、担当者に必ずお問い合わせをお願いいたします。
- 商品の分解、および他の商品・ガラスの流用もお避けください。

取付け方法 (タイル貼りの場合)

1. 器具の取付面を確保します。電源は電源穴位置に出してください。
2. 器具取付面を平らに仕上げます。取付面にデコボコがあると、取付部のパッキンの防水性が損なわれますので、十分ご注意ください。
※躯体が木造ワイヤラス貼り、メタルラス貼りの場合は、ポリ台・木台などを介し取付けネジとラスの間を絶縁してください。
3. 器具取付けの際は、必ず付属の防水パッキンを使用してください。



配線器具対応表

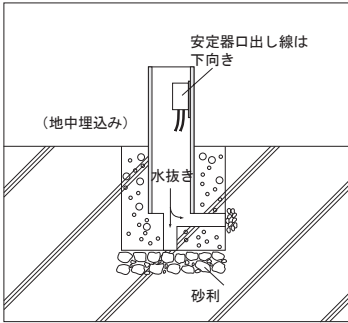
- … 一般のお客様ご自身で取付できます。
- × … 有資格者による取付工事が必要です。

配線器具	ローゼットタイプ		シーリングタイプ			ライティングレール
	フル引掛ローゼット	引掛埋込ローゼット 引掛露出ローゼット	丸型フル引掛シーリング	丸型引掛シーリング	角型引掛シーリング	埋込型・露出型
引掛シーリング		○		○		×
かんたん		○		○		×
取付簡易		○		×		×
ダクトプラグ		×		×		○
⌘		×		×		×

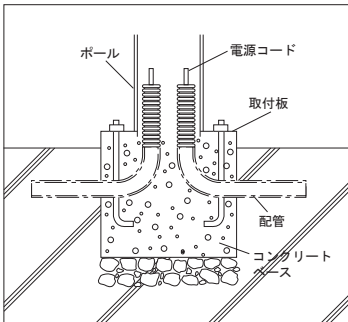
※ ⌘ の表示されている器具の取付は電気工事に依頼してください。
マークの下に「ボルト」の記載がある器具は、ボルトを使用して固定してください。

施工ガイド

ガーデンライト・ポールトップライトについて



- ポール埋込み型
ポールの埋設による施工方法です。

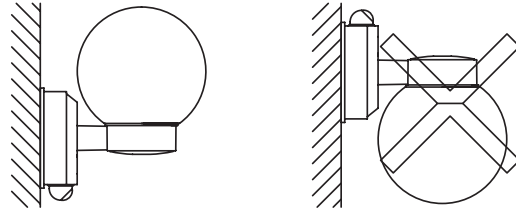


- ベースプレート型
ベースプレートを敷き、ボルトによって取り付ける施工方法です。

- ポール内は水が溜まりやすいので充分水抜きを行ってください。
- 水抜きができないときは、地中から湿気を防止するためにポール内へ、川砂を地表面より上部（砂側が高くなるように）まで入れてください。
- ポール地際部の、腐食防止のため必ずコンクリート根巻きをしてください。
- 地際部は腐食しやすいので、少なくとも3～5年に1回、できれば年1回程度必ず定期的に点検をし、もし腐食が見られる場合は速やかに補修、また交換をお願いします。

- コンクリートによる基礎工事を行い、アンカーボルトにより取付板を固定してください。アンカーボルト(M10mm)は、別途お求めください。
- 配線は左図の通りに行ってください。ケーブルは保護管などで保護してください。
- 施工に関しては、電気設備技術基準、内線規程に従ってください。

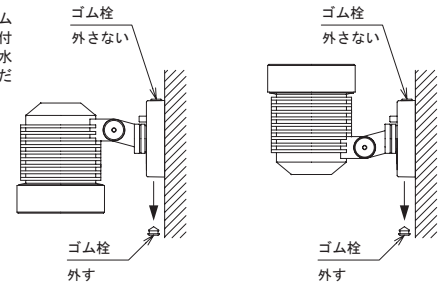
ウォールブラケット（壁付用器具）について



- 取付け方向が指定されている器具は、取扱説明書および本体表示にしたがって、正しい方向に取付けてください。
- ★ 指定以外の方向に取付けると、火災や感電、器具落下による「けが」の原因となります。

- 防湿型、防雨型器具の取付けは、必ず取付け面と器具取付け部のゴムパッキンが密着するようにしてください。取付け面に凹凸がある場合（タイル面など）はパッキンと取付け面との隙間を防水用シール材などで埋めてください。
- ★ 防水が不完全な場合、火災や感電、器具落下による「けが」の原因となります。

- 防雨型器具で水抜き用ゴム栓を設けているものは取付け方向に従ってそれぞれ水抜き用ゴム栓をはずしてください。



バリアードライト（地中埋設器具）について

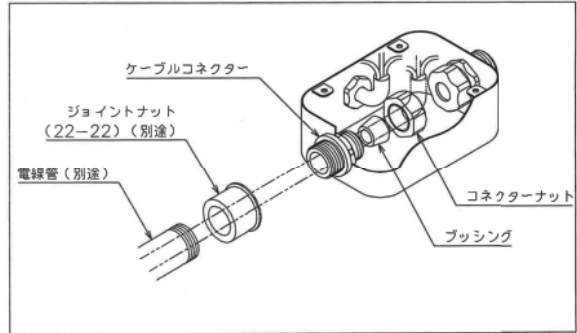
施工時の注意点

- 電源線は（「0Vケーブル使用可能」と表記がある器具を除き）2種EP絶縁クロロレンキャブタイヤケーブル（2PNC1）3芯φ10.5～13.0専用です。指定外ケーブル（VCT等）の使用はできません。
- プッシング コネクターナットを外し、コーキング等の処理はできません。
- 器具をG.L. 仕上げ面より下に埋め込まないでください。また水中や水没する恐れのある場所には使用できません。
- 強酸、強アルカリの地質および雰囲気では使用しないでください。
- 接地（アース）工事は必ず行ってください。
- バリアードライトには器具内用または器具外用の電源線締込み用のケーブルコネクター、または結線ボックスがついています。接続方法は図を参照してください。
- コンクリートに埋設する際は、器具内を完全に乾燥させてからご使用ください。

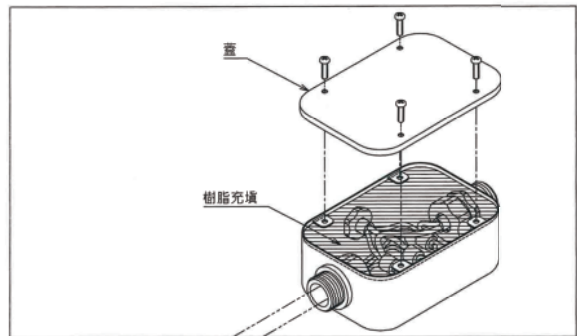
使用上の注意点

- ガラス表面上は製品の配光効率の維持と危険防止のため常に清掃をお願いします。
- ランプ交換等のメンテナンス時にはガラスが接するゴムパッキン周辺の土、砂利等の異物は完全に除去してください。

●結線BOX付き 電源線締込接続図（0Vケーブル使用可能）

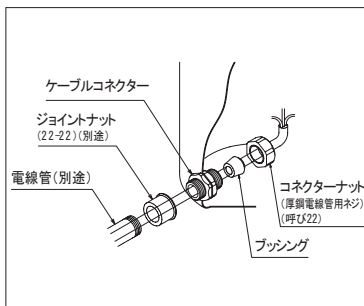


- 1: 電源線を結線BOX内に引き込み、ケーブルコネクターにて固定します。

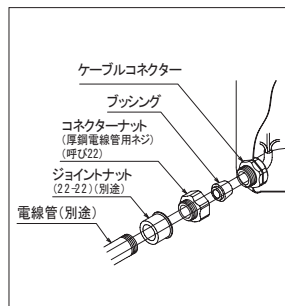


- 2: 電源線と器具口出し線を結線し、樹脂を充填後、蓋を閉めます。

●器具内、電源線締込接続図



●器具外、電源線締込接続図

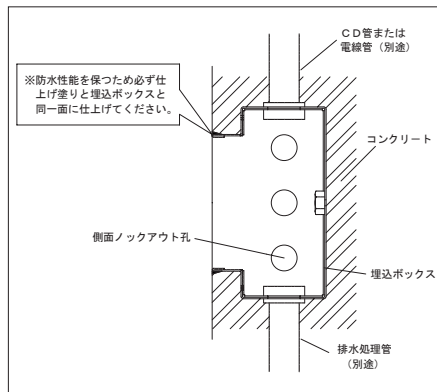


施工ガイド

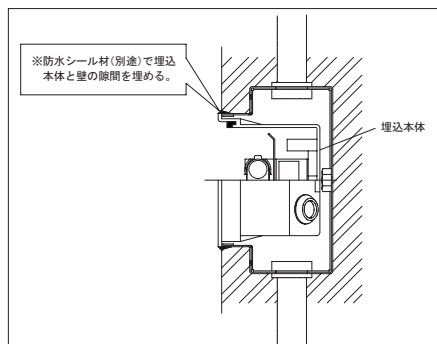
フットライト(壁面埋込み型) について

器具設置前に埋込ボックスをご用意ください。

注) 埋込ボックスへの電源線の配線は、上部および左右の孔を使用してください。

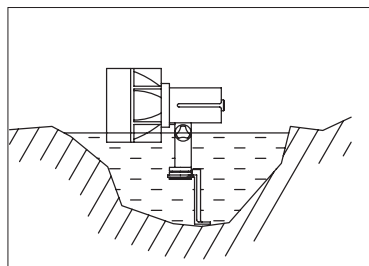


1: 壁面の仕上げを確認する。

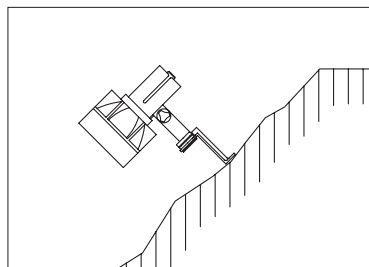


2: 埋込本体を確実に固定する。
3: 防水シール材で埋込本体と壁の隙間を埋める。

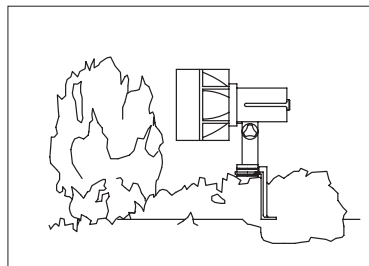
スパイク式スポットライトについて



- くぼ地の水がたまる恐れのある場所には設置しないでください。
- 水没する恐れのある場所には設置しないでください。
- ★ 浸水して、感電、漏電の原因となります。



- 器具が倒れる恐れがある傾斜のある場所には設置しないでください。



- 草木で器具がおおわれる恐れがある場所には設置しないでください。